



独立行政法人  
 国立国際医療研究センター  
*National Center for Global Health and Medicine*

# 国府台

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1  
 国立国際医療研究センター国府台病院長 上村 直実  
 TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858



11月

第13号

## [木内ギャラリー]

明治から大正時代に活躍した政治家の木内重四郎が、別邸として真間の高台に建築した和洋折衷様式の近代建築様式としては歴史的価値の高い建物です。大正近代建築物を保存するため洋館部分のみを移築し、現在はギャラリーとして公開されています。

## 目次

◇ 建築中の新棟が平成24年3月に完成します	.....	2
◇ 新医師の挨拶・心臓血管外科を新たに開設	.....	3
◇ 地域医療連携室の紹介、地域医療連携病院のご紹介	.....	4
◇ 第65回国立病院総合医学会	.....	5
◇ 第3回肝臓病教室の開催報告	.....	7
◇ インターンシップ研修	.....	8
◇ 自衛消防隊操作大会へ参加して	.....	8
◇ 第2回NCGM-ICLSコースの開催	.....	9
◇ 児童精神科病棟の行事	.....	9
◇ 受療行動調査・院内保育所運動会	.....	10
◇ 節電結果報告・ワンルーム宿舎及び研修棟新築工事	.....	11
◇ 栄養一口メモ・看護師を随時募集中	.....	12
◇ 肝臓病教室及び市民公開講座のご案内	.....	13
◇ オープンカンファランス・クリスマスコンサートのご案内	.....	14
◇ 編集だより	.....	15

\*ホームページでは、カラーでご覧になれます <http://www.ncgmkohnodai.go.jp>

建築中の新棟が平成24年3月に完成します

①平成24年 春 オープン

「 肝炎・免疫研究センター棟 」

②平成24年 夏 オープン

「 新病棟 (300床) 」



① 研究棟の完成に伴い、当センター研究所（東京都新宿区）の関連部門の移転を行い、新たに肝炎・免疫研究センターがオープンします。

- 肝臓及び免疫分野における国内トップクラスの人材及び研究機器を有し、世界でも最先端の研究を遂行し、肝炎に対する診断、治療、予防に貢献することにより肝炎及び肝がんの撲滅と免疫疾患対策を目指します。
- 情報提供…肝炎等に対する情報を収集し医療機関等に提供します。
- 拠点病院への支援…肝疾患診療連携拠点病院に対する研修や診療支援を行います。
- 研修機能…医療の均てん化と高度医療を目的とし様々な医療機関の医師及びコ・メディカルに対する研修を行います。

◆新研究棟の建物概要

構造:RC造 地上5階建  
高さ: 25.05m  
建築面積: 1,175.82㎡  
延床面積: 4,951.92㎡

◆組織と役割

- 肝疾患研究部(1部2室)  
肝疾患の診断技術及び治療方法の開発及び改良のための調査、研究
- 消化器疾患研究部(1部5室)  
消化器疾患の調査、研究
- 免疫制御研究部(1部3室)  
免疫疾患及び免疫異常に起因する疾患の調査、研究
- 免疫病理研究部(1部4室)  
免疫疾患及び免疫異常に起因する疾患の病理学的調査、研究
- 肝炎情報センター(1センター2室)  
肝疾患に関する調査及び研究、情報の管理並びに技術者の研修

② 新病棟の完成に伴い、一般病棟は全て新病棟に移転します。

- 肝炎・免疫研究センターの研究部門と病院部門との連携により肝炎・免疫に関する診断・治療・予防等を実践します。
- 地域の医療機関に対して尊敬の念を抱いたチーム医療に努力します。
- 総合病院機能を生かし身体合併症や複合疾患医療を実践します。
- 職員が楽しく働き、ゆとりを持ち、互いに尊敬し合い、笑顔の絶えない職場環境を大切にします。

◇新病棟の建物概要

構造: PC造 地上5階建  
高さ: 21.5m  
建築面積: 3,346.21㎡  
延床面積: 12,689.34㎡  
規模: 一般6ヶ病棟、300床

◇新病棟の特徴

- 2階から4階までを病棟で構成しています。
- 一ヶ病棟50床、各病室は明るく静かです。
- 個室を約40%とし療養環境を整えました。

## 新医師の挨拶

(心臓血管外科医師 賀嶋 俊隆)



平成22年4月まで国立国際医療研究センター病院心臓血管外科に在籍しておりましたが、一身上の都合で約1年半内科医をやっておりました。今回縁があって当院へ赴任することとなりました。医師1人、手術機材、マンパワーも充分でないため心臓血管外科としての活動は現在のところは不十分であります。循環器科の先生方(田中由利子循環器科医長、一瀬哲夫医師)と連携を組み、循環器疾患全般における診断、治療の底上げ、充実化を目標に診療にあたっています。

今まで培ってきた心臓血管外科医としての経験と知識を活かし、少しでも地域医療のお役に立てればと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

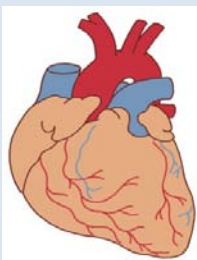
## 心臓血管外科を新たに開設

国府台病院では平成23年10月から心臓血管外科を新たに標榜し診療を開始しています。

当院の心臓血管外科の対象疾患といたしましては、医師数や医療機器の関係から、心臓及び大血管の手術自体を行うことは現在のところは困難であります。循環器科との連携を図り、「治療方針の決定」、「手術適応の有無」、「セカンドオピニオン的なご相談」について対応いたします。地域の方々にはお気軽に受診されることを心よりお待ち申し上げます。

具体的に手術可能なものとしては、「ペースメーカー関連手術」、「下肢静脈瘤、下肢の慢性閉塞性動脈硬化症関連手術」、「血液透析のための血管アクセスの造設」等がございます。

また、本年11月中には最新の機器(血管連続撮影装置)が整備されますので、心臓カテテル室を開設し、動脈造影、更にそれに伴う血管内治療を積極的に施行して行く予定です。



外来診療日：毎週 月曜日午前

担当医：賀嶋 俊隆

昭和60年昭和大学医学部卒業

外科学会認定医

外科学会専門医

胸部外科学会認定医

心臓血管外科専門医



本年11月に稼働を開始する最新鋭のアンギオ装置  
シーメンス社の「Artis zee BA」で、全身領域を3D画像で  
撮影することが可能です。

### アンギオ装置って何？

アンギオ装置とは、血管造影法と呼ばれる検査に使用される医療機器です。

血管造影法は「アンギオグラフィー」と呼ばれる特殊な検査で、専門技術の修練を積んだ医師がカテテルと呼ばれる管を太ももや腕の血管から挿入し造影剤と言われる薬剤をカテテルから注入します。血管の狭窄や閉塞、動脈瘤と呼ばれる血管のこぶ、或いは血管の関与した腫瘍などの検査ができ、治療方針の決定に役立ちます。近年はこれを応用した血管内治療と呼ばれる手技が発達しています。抗がん剤の投与や血栓溶解、閉塞血管の風船による拡張術(バルーン拡張術)等さまざまな臓器への治療応用があり、高度先端医療には欠く事の出来ない装置です。

## 地域医療連携室の紹介

地域医療連携室長  
(第二消化器科医長) 今村雅俊

当センターでは、かかりつけ医の先生方との連携を大切にするために地域医療連携室を設置しています。連携室では本年度から担当メンバーを大幅に強化し、一層魅力的で利便性の高いものにするべく取り組んでいるところです。近日中に当センターのホームページ(<http://www.ncgmkohndai.go.jp/>)も刷新され、トップページに「地域医療連携室」のタグが設置される予定です。是非ご覧下さいませようお願い致します。

現在、連携室では、「CT」、「MRI」、「核医学検査」、「骨塩定量」などの放射線検査、そして「脳波検査」、「心臓超音波検査」、「腹部超音波検査」などの生理検査は、ご紹介をいただいた先生や患者さんをお待たせしないシステムの構築を急いでおります。また、ご紹介頂く場合は専用のFAX申込書の他に、診療科によっては「病診連携専用の診療枠」を設定し、お電話を頂戴したその場で予約日時を決めることができるようにする予定です。

地域医療を担われている近隣の諸先生と、より緊密な連携が取れるように、今後も様々な分野で取り組んでいく所存でございますので、何かご意見ご希望などございましたら、遠慮なく「地域医療連携室」へご連絡いただきますようお願い致します。

### “「連携医登録制度」を12月から開始”

地域医療機関の先生方との相互連携をより緊密にし、地域の患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療を提供することを目的に「連携医登録制度」を導入することになりました。

- 1) 「連携医証」と「連携医名札」を発行します。
- 2) 当院の「連携医」としてご紹介させていただきます。
- 3) 当院で実施する諸検査の見学や、特定の診療についての研修に参加していただくことができます。
- 4) 当センターで開催される臨床・研究のカンファレンス、研究会や講演会などの医学集會にご参加いただけます。

#### 地域医療連携室直通

TEL 047-375-4744

FAX 047-375-4746 受付 8:30~16:30(土日祝日を除く)



地域医療連携室スタッフ

## 地域医療連携病院のご紹介

ふくざわ内科クリニック  
院長 福澤 健次

ふくざわ内科クリニックは、JR市川駅から徒歩2分の所に開業して10年目を迎えております。

気管支喘息、慢性肺気腫などの呼吸器疾患のほかにも高血圧症、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病を含み、感染症、消化器疾患、循環器疾患など総合的な内科医療を行って地域住民の方々の健康管理のお手伝いをさせていただいております。通院が困難になってきた方の在宅医療も他の医療機関と連携を取りながら行っています。国府台病院は数年前、システムもスタッフも一新され、私どもを始め開業医は大変頼りにしております。

今後とも宜しくお願い致します。



住 所 : 市川市新田4-7-9  
勝ビル2階  
電 話 : 047-393-6200  
診療科目 : 内科一般  
呼吸器内科  
循環器内科  
予防接種 : インフルエンザワクチン  
肺炎球菌ワクチン  
子宮頸癌ワクチン  
各種検診 : 市川市特定健診  
一般健診  
各種がん検診



## 第65回国立病院総合医学会（岡山）

平成23年10月7日（金）・8日（土）、岡山市内の3会場において第65回国立病院総合医学会が開催されました。

本学会は、国立病院機構、国立高度専門医療研究センター、ハンセン病療養所の職員など約6千名が参加する大規模な学会です。今年のテーマは「明日の医療のために チャレンジ そして チェンジ」でした。今年も国府台病院から参加した7名の方々に学会参加報告をいただきました。



〈口演〉

栄養係長 鈴木 知子



国立病院総合医学会において「多職種・他チーム連携の推進によるNST活動の現状」について口演発表いたしました。NST (Nutrition Support Team) というのは栄養療法専門チームの医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師等が主治医と共に患者さん個々に適した栄養管理の支援をする栄養サポートチームのことで、当院では平成21年6月から活動しています。活動を進めるなかでの課題について、いくつかの取り組みと効果を報告しました。現状においては栄養管理面で早期に介入し、その結果検査データだけでなく表情や身体的な回復がみられるケースが増加しています。発表後嬉しいことに、当院の取り組みがNST単独でなく、褥瘡対策チームや摂食嚥下リハビリ等の他チームと連携を推進、活性化されていると評価され『ベスト口演賞』をいただきました。この受賞はNSTメンバーの励みにもなり、私自身、今後さらに患者さんのQOL向上に貢献できるよう業務に取り組んでいきたいと思いました。

最後になりましたが学会参加・発表をさせていただくにあたりご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。

〈口演〉

栄養係主任 近藤 純子



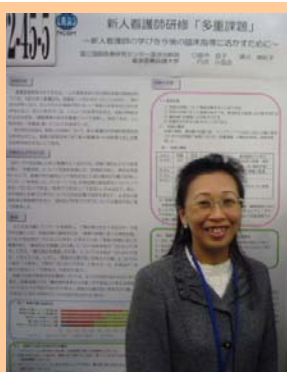
暑さが残る10月7日、国立病院総合医学会参加のために岡山へ向かいました。岡山といえば桃をイメージする方も多いでしょうが、ブドウの生産も全国有数でおみやげ屋さんにはちょうど旬のマスカットをはじめとして何種類も並んでいました。

学会では「オーダーリングシステム活用による個人栄養食事指導件数増加への試みとその効果」の演題にて口演を致しました。個人栄養食事指導は疾病治療の基礎的な役割を担う重要なものですが、その必要性や指導が必要な疾病・状態が周知されていないことなどから指導依頼が低迷しておりました。そこで平成21年7月から導入されたオーダーリングシステムを活用して医師や看護師の協力のもと、個人栄養食事指導が必要な患者さん・ご家族へお待たせすることなく実施したことで件数増加にもつなげることができた内容を発表致しました。

今後は更に患者さんのためにより良い指導を行っていきたくと考えております。食事で気になることや食事療法が難しいと感じる方は医師や管理栄養士へお気軽にご相談下さい。個々に適した食事について話しをさせていただきます。

〈ポスターセッション〉

教育担当看護師長 田中 且子



私は、第65回国立病院総合医学会ポスターセッションにて「新人看護師研修『多重課題』～新人看護師の学びを今後の臨床指導に活かすために～」という演題で発表させていただきました。

教育担当看護師長として新人看護師教育に関わり、入職して間もない新人看護師たちが直面する「多重課題」のロールプレイを通して、「優先順位を考えた行動」「患者の立場や思いを考えた行動」ができるような指導の必要性が示唆されました。

全国どこの施設においても新人看護師教育には関心が高く、教育担当の方々から多くの質問をいただきました。発表を通して、他施設との情報交換・情報共有という機会も得られましたので今後の看護師教育に活かしていきたいと思っております。発表の機会をいただきましたことに感謝致します。

〈ポスターセッション〉 28病棟看護師長 浦川 由紀子

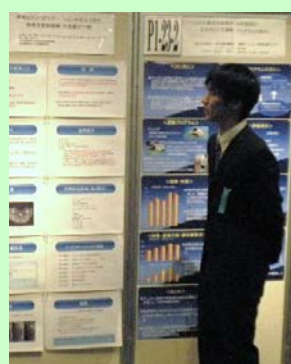


私は、4月から教育委員会のメンバーになり、新人看護師の教育を担当しています。

新人看護師を育成する中で、自分自身も多くの気づきや学びをすることができ、大きな学びを得た「多重課題」について看護研究の発表をしました。同じ新人看護師研修について田中教育担当看護師長は、新人看護師の視点でまとめ、私は研修計画立案者の視点からまとめて研究したことに、会場から「興味深い内容」とコメントをいただきました。

今後は、新人看護師だけでなく、様々な看護師への研修企画や指導をする中で、この研究での学びを活用していきたいと思いました。

〈ポスターセッション〉 理学療法士 嶋 悠也



国立病院総合医学会において、『早期よりリハビリテーションが介入できた特発性脊髄硬膜外血腫の一例』についてポスター発表を行いました。

特発性脊髄硬膜外血腫は、発生頻度0.1人/10万人/年と稀で、リハビリテーションを行った報告も少ない疾患でした。

今回の発表は、急性期から患者さんに対してどのようにリスク管理を行い介入したかを報告しました。国立病院総合医学会への参加は今回初めてでしたが、他部門の発表などが聞けて大変勉強になりました。

また、今回はリハビリテーション部門での発表でしたが、今後は他部門での発表を行い、他職種の方達からより多くのことを学びたいと思いました。

〈ポスターセッション〉 理学療法士 玉田 良樹



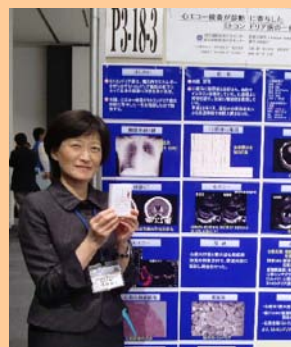
国立病院総合医学会において、“陳旧性心筋梗塞を既往に持つALS患者に対するカフアシスト®の使用経験”についてポスター発表をしました。内容は、カフアシストという痰を出す機械を初めて病棟に導入した経緯、経過についてまとめたものです。

病棟看護師さん達の協力があり、円滑に導入ができ、患者さんの症状も早期に改善しました。会場にいた医師から、多くの助言や励ましの言葉を頂きました。

そのなかで、チーム医療の大切さを改めて感じ、これからも研鑽していこうと思いました。

発表に際しては、当院から学会に参加された多くの方々に発表を聞いて頂き大変心強かったです。ありがとうございました。

〈ポスターセッション〉 生理検査主任 澤部 祥子



国立病院総合医学会に参加いたしました。当日はすがすがしい秋晴れに恵まれ、桃太郎まつりの期間中でもあり、岡山の街はたくさんの人で賑わっていました。

発表した演題『心エコーが診断に寄与したミトコンドリア病の一例』は、心エコーがきっかけとなり、各診療科およびセンター病院との連携によって確定診断できた症例です。

ポスター発表は初めてだったのでとても不安でしたが、周りのかたがたのアドバイスもあって無事終えることができ、しかもベストポスター賞をいただくことができました。

また、会場には東日本大震災における国立病院機構の災害支援活動に関するポスター展示もあり、多くの支援活動が行われていることを知るとともに、災害医療の重要性を痛感しました。

最後に、今回発表するにあたりご協力下さいました皆様に深謝いたします。

## 第3回 肝臓病教室の開催報告

肝炎・免疫研究センター  
肝疾患先端治療室長 村田 一素

本年9月3日(土)に第3回肝臓病教室を国府台病院大会議室で行いました。今回は前回は大きく上回る92名の方にご参加いただきました。

まず、私、肝炎・免疫研究センターの村田一素肝疾患先端治療室長より、「肝硬変の病態とその注意点」と題し、患者自身で分かる肝硬変の症状・兆候及び肝硬変になった場合の注意点につき説明を致しました。次に肝硬変患者さんの食事について、河野公子栄養管理室長より「肝臓にやさしい食事について～肝硬変の食事療法～」と題した説明があり、肝臓機能が正常の場合は、健康人とほぼ同じ食事で良いが、非代償性肝硬変とって肝臓の機能が低下した場合は、特殊な食事又は補助食品の摂取が必要である、といったお話しが具体的な調理例の紹介とともにありました。そして、溝上雅史センター長からは、「ここまで治るようになったC型慢性肝炎」と題し、世界及び日本におけるC型慢性肝炎治療のこれまでの推移と新規治療薬の治療成績、現在における新規治療法について説明がありました。また、将来的にはC型慢性肝炎は内服薬のみで、ほぼ治療できる時代が近いとのことのお話もありました。

今回の肝臓病教室で、肝硬変の方にはその予防と病気の付き合い方を、C型慢性肝炎の方には明るい将来がすぐそこまで来ていることをご理解して頂いたのではないかと考えています。

一方、恒例となりました教室終了後の個別相談も好評で、血液検査値或いはCT検査などの画像を見ながら適切な助言をさせていただいております。

ただ、折角資料をお持ちになられても、待つ人の列に閉口し帰られた方もお見受けいたしました。皆様のご期待に沿えるよう、さらに相談医師の人数を増員していこうと考えております。また、今回は椅子の数が不足するほどの盛況ぶりでしたので、次回は更なる参加数の増加を見越してお待ちしています。

ところで、先日11月4日～8日にアメリカ肝臓学会(AASLD)が米国サンフランシスコに於いて行われ、当センターからも数名が参加し研究成果を発表すると共に世界各国の方々との情報交換を行ってまいりました。特にC型肝炎の治療に関する進歩はめざましく、ほぼ100%治る治療薬の報告もございました。今後、本邦におきましても臨床治験が行われた後、臨床応用されるものと期待しております。そこで、次回の第4回肝臓病教室は、12月10日に当院大会議室(第3回と同じ場所)において、「治験って何だろう?! 治験は未来への贈りもの」と題し、治験管理室治験主任の浦辺登喜子さんより治験についてのお話を頂き、当院における肝炎に関する治験についても言及して頂く予定です。また、肝炎情報センター長の正木尚彦医師よりは、「肝炎対策のこれまでの流れと今後のあり方」と題し、本邦における肝炎の取り組みについてお話しいたします。また、開催の度に参加された方々にはアンケートを取らせていただいておりますが、その中でリクエストが多かった「脂肪肝と非アルコール性脂肪肝(NASH)」について、当院消化器内科の斎藤紘昭医師にお話し頂きます。NASHはアルコールを多飲していないにも関わらずアルコール性肝障害と同様に肝臓が悪くなり、ひどい場合は肝硬変・肝癌を引き起こすもので最近注目されている病気で、次回、第4回肝臓病教室もご期待ください。

開催日時: 9月3日(土曜日) 14:00～16:00  
於: 国府台病院 大会議室(2階)

- 14:00～14:05 「概要説明」  
村田一素 肝疾患先端治療室長
- 14:05～14:35 「肝硬変の病態とその注意点」  
村田一素 肝疾患先端治療室長
- 14:35～15:05 「肝臓にやさしい食事について」  
河野公子 栄養管理室長
- 15:05～15:35 「ここまで治るようになったC型慢性肝炎」  
溝上雅史 肝炎・免疫研究センター長

※ 講演の終了後に肝炎、肝硬変、肝癌を中心に個別相談を行いました。



村田一素 室長



溝上雅史 センター長



河野公子 室長

## インターンシップ研修

副看護部長  
戸谷 益子



研修参加者

看護部では、インターンシップ研修を今年度から開催しています。この研修は、国府台病院の看護を体験し、臨床現場の実際を知ることが目的に今年度から開始しているもので既に2回開催しました。第1回目の7月22日(金)は6名、第2回目の8月12日(金)は19名の参加がありました。参加者は現在就職活動をしている学生で、千葉県以外にも、東京、茨城、福島、岐阜からも参加がありました。学生の臨地実習とは異なり、看護師の職業体験をしてもらうことが目的なので、担当病棟では看護師の仕事と一緒に体験していただきました。

約3時間の体験で「実習で見学したことのない手技を見ることができて勉強になった。」「実習と仕事では違うなと思った。」「忙しい中でも、病棟スタッフの雰囲気や和やかで優しいと思った。」などの感想を頂きました。また「就職して6月頃は何人位の患者さんを担当するのか。」「三交替の大変なところはるか。」「休みはどのくらいあるか。」など沢山の質問があり、就職を意識した内容から研修生の真剣さが伝わってきました。

今回のインターンシップ研修の参加者の中から多くの方が、当院への採用試験を受けて頂きました。来年もまた更に充実したインターンシップ研修を計画したいと考えています。

## 自衛消防隊操作大会へ参加して

事務部管理課  
庶務係 古川 翔太

9月28日、行徳橋北詰江戸川河川敷消防訓練場にて平成23年度事業所自衛消防操法大会が行われました。当院からは嶋理学療法士、昆診療放射線技師、古川庶務係員の3名が出場しました。

この大会は3人1組のチームで消火器による初期消火、消防署への通報、院内放送、屋内消火栓による消火までの行程を競う大会です。行程だけでなく、声の大きさ、情報伝達の正確性、屋内消火栓での消火までの迅速さが問われるものでもあり、難易度の高いものでした。当院以外からも多くの事業所が集まり、総勢24組の大会となりました。



努力賞を受賞

(古川・嶋・昆)

当院では大会までに3日間の練習日を設け、炎天下のなか国府台出張所の消防隊員の方々に指導を受けながら各々担当する部分の練習をしました。1日目の時点では各自の動きを覚えることで精一杯でしたが、2日目、3日目と練習することで一連の流れだけでなく、声の大きさも上がりました。

当日は16番目の出場であったため、その間多くの事業所を見学していましたが、どの事業所も練習の成果を発揮し熱意が伝わってきました。当院も他の事業所に負けないように全力で挑みましたが、努力賞という形で終わってしまいました。

残念ながら目標としていた最優秀賞を獲ることはできませんでしたが実際に火災が起きた場合に重要になってくる初期消火、院内避難放送、屋内消火栓の使用という一連の流れを習得することが出来ました。練習や大会で得たことを活かし他職種との連携を図りながら防災活動及び日常業務で役立てていきたいと思ひます。





## 第2回 NCGM-ICLS コースの開催

～第2回 院内2次救命処置講習を終えて～

外来診療部 理学療法室  
理学療法士 大久保 裕史

10月29日(土)、当院大会議室にて院内職員を対象とする第2回 院内2次救命処置講習が行われました。受講生は、当院の初期研修医3名、看護師8名、看護助手1名の計12名、指導スタッフは東京医療センター救急救命センターの医師1名、看護師1名及び当院の医師1名、研修医1名、看護師9名、リハビリ職5名、院外指導スタッフ4名の計22名でした。受講生全員は無事に受講認定されました。

ここで言う「2次救命処置講習」とは、日本救急医学会認定ICLSコースと呼ばれるものであり、緊急性の高い病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標にしています。座学での講義はほとんど行わず、実技中心となっています。実際、起こりうる場面を想定し、およそ1日かけて蘇生に必要な知識や技術、チーム医療を身につけるコースです。

<運営に携わって>

2回目のコース開催にあたり、通例であれば医師を中心とした運営ですが、前回同様、リハビリ職がサブディレクターとして運営の一翼を担うことになりました。医師以外の医療従事者がこの役職に就くことは非常に珍しいことで、5年前のリハビリテーション科で「急変時に対応できるように」と取り組み始めたことを思い返すと、コース運営に携われたことは個人的に感慨深いものでした。

<コース全体として>

当院スタッフは、認定指導者を輩出する一方で、コース内で行う救命処置寸劇での役者輩出においても有名であり、今回もその演技力にて、緊張感溢れる場を和ませ、受講生の集中力を保ちながら、良い緊張感の中でコースを終えました。また、指導スタッフの尽力により、受講生からも本コースが有益であったとのコメントを頂き、終了時には裏付けされた知識、技術の習得に至ったのではないかと実感しています。

<最後に>

5年前より始まった小さな灯火が、今や日本救急医学会認定コースを開催するまでとなり、現在では全病棟に有資格者がおり、学会認定の指導者も徐々にその数が増えていることは、今後の当院でのコース開催において大変心強いものです。しかし、本懐は、安全確保、危機管理の視点から標準化したチーム医療の知識と正確な手技の習得により、病院全体として急変時対応能力の向上を目指すものであり、今後もこの「火」を絶やさぬようにしていきたいと思えます。



インストラクターと受講者集合写真

## 児童精神科病棟の行事

～児童精神科病棟での梨狩り遠足～



梨狩りを楽しむ子供たち

梨を満喫した後に、大町のフィールドアスレチックへ行きました。アスレチック場では、お昼ごはんを食べてからそれぞれのグループでアスレチック番号の1番から行ったり、池やターザンなど好きなところを何度も行ったりと思い思いの遊び方をしていました。池ではびしょ濡れになりながらも笑顔いっぱい元気な遊ぶ声が響き、体力的についでいけない子を励まし合いながらもグループでの行動を通して楽しいひと時を過ごしました。

## 36病棟 看護師

田口 そよは

9月7日(水)に病棟の活動集団精神療法のひとつである梨狩り遠足に行きました。

医師や看護師、ソーシャルワーカー、院内学級の先生が引率し、36病棟に入院中の子供と院内学級に通学している小学生、中学生合わせて43名が参加しました。

晴天のなか、汗をかきながら矢切駅から北総線に乗り松飛台駅から梨園まで歩きました。梨園ではオーナーからもぎ方を教えて頂き、1人1個ずつ梨をもぎました。今年は、もぎたての梨を自分でその場でむいて食べました。梨のみずみずしさや甘さに感動し、友達のもいだ梨と食べ比べをして「美味しいね」と声を掛けあいながら食べました。



梨狩りの後はアスレチックへ

## 受療行動調査（アンケート）が行われました



10月22日に当院で医療行動調査が行われました。この調査は厚生労働省が3年に1度、全国から無作為抽出により選ばれた病院において実施されるものです。病院を利用する患者さんから受療の状況や、受けた医療に対する満足度を調査し、患者さんの医療に対する認識や行動を明らかにし、今後の医療行政の基礎資料を得ることを目的としています。この調査結果は統計法に基づく統計資料として来年夏頃に厚生労働省のホームページで公開されます。

当日は、病院職員が早朝から入院患者さん及び外来患者さんに調査票をお渡しさせて頂き、大勢の患者さんにご協力をいただき終了しました。



## 院内保育所運動会（10月8日）

国府台病院 つくしんぼ保育所  
園長 田中 希奈

当院は、職員の福利厚生を目的に院内保育所(つくしんぼ保育所)を設置しています。現在の在籍園児は0才から6才まで合計43名です。保育所では様々な行事を行っていますが、毎年10月には運動会を行っています。今年も楽しい運動会が開催されました。

10月8日秋晴れの土曜日、多くのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、卒所したお友だちが見守る中、つくしんぼ保育所の運動会が開催されました。

- ◇ 入所して5日目のお友達もありますが、今まで遊びの中で培われてきた力を存分に発揮できる運動会！
- ◇ 0歳児から年長児まで総勢43名・いつもと違う環境で戸惑ったり、くやし涙を見せる子もいましたが今年の子どもたちもみんなたくましい！！
- ◇ かけっこ・リレーで元気いっぱい走る姿を見せてくれたり、2から5歳児のお友だちは可愛く・格好良い衣装や小道具を身にまとい華麗なるダンスを披露
- ◇ 年齢や発達に応じて、ひとりひとり挑戦する体育あそびは成長も感じられて感動の嵐！
- ◇ 最後は毎年恒例 大好評のクッキー取り競争（3から5歳児のお友だちが作る手づくりクッキーです）笑いあり涙あり、最後までにぎやか元気いっぱいの運動会でした。



## 節電の実施結果報告

当紙前号(12号)でご案内したとおり、本年6月1日に経済産業大臣から大口需要家に対する電力使用制限(7月1日～9月22日)の通知があり、当院では患者さんの生命・身体の安全確保に支障のない範囲内で行動計画を立て、8%削減とした自主的目標を掲げて様々な取り組みを実践してまいりました。

お陰をもちまして節電目標を達成することができましたので報告いたします。

なお、この電力使用制限は前倒しにより9月9日で終了しましたが、電力の安定確保が当分は望めない我が国の情勢から、冬季に向けても節電に心掛けて参りますので、引き続き節電のご協力をよろしくお願い申し上げます。

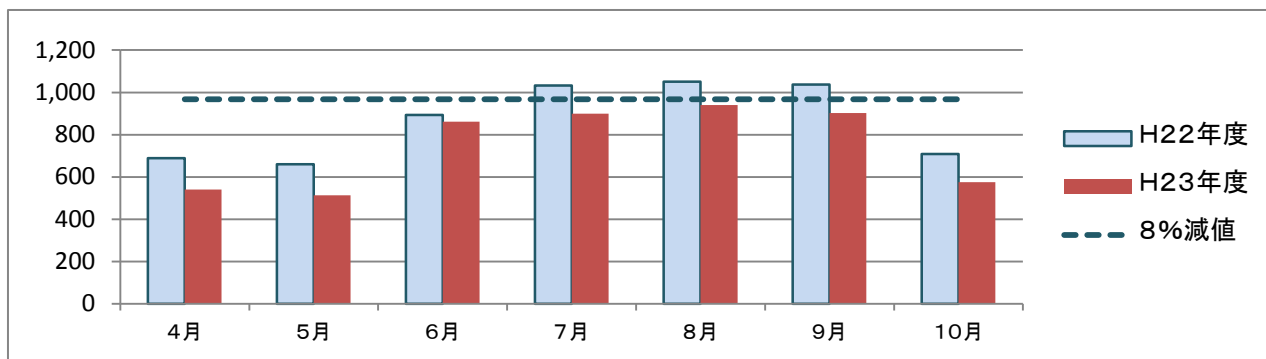
### 1. 最大電力使用量

	瞬間最大電力(Kw)		目標値 8%減値	削減率 対22(%)
	H22年度	H23年度		
4月	689	540	967	21.7
5月	660	514	967	22.2
6月	894	861	967	3.7
7月	1,032	900	967	12.8
8月	1,051	941	967	10.5
9月	1,037	902	967	13.1
10月	708	576	967	18.7

### 2. 電力使用量

	電力使用量 (Kwh)			
	H22年度	H23年度	差(KWh)	削減率
4月	273,238	229,174	▲ 44,064	16.2
5月	251,974	223,720	▲ 28,254	11.3
6月	320,458	270,856	▲ 49,602	15.5
7月	428,525	361,915	▲ 66,610	15.6
8月	473,386	380,392	▲ 92,994	19.7
9月	367,109	331,910	▲ 35,199	9.6
10月	274,992	240,336	▲ 34,656	12.7

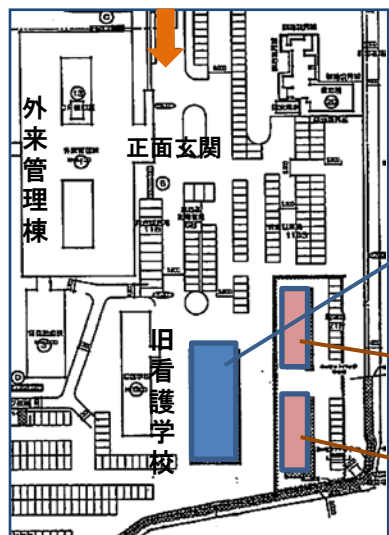
最大電力使用量の推移(Kw)



## ワンルーム宿舎及び研修棟新築工事

当院では、ワンルームタイプ宿舎3階建を2棟、そして、研修棟3階建1棟を建設予定としています。

現在の宿舎は老朽化し、入居困難な状況であり早急な整備を望んでいました。この度、公募により第三者(事業者)に土地を貸し付け事業者所有の宿舎を建設し、運営・維持管理を依頼するものです。埋蔵文化財調査が終了次第、建築を開始し、来年3月には入居できるよう進めています。



また、研修棟は1階が研修室、更衣室、仮眠室など、2階と3階は研修者の宿泊施設となっています。

これらの建物は、現在設計を進めており、今後、住民説明を行い、本年中に契約、工事開始する予定としています。

近隣住民の皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、何卒ご協力方よろしくお願い申し上げます。



ワンルーム宿舎景観イメージ

## 栄養一口メモ

★☆☆ 寒さに強い！ 小松菜 ★☆☆



小松菜の若芽

### ●簡単おいしい知恵袋

〈ベーコンクリーム煮（4人分）〉

- ① ベーコン2枚を1センチ幅に、小松菜1束を3センチ幅に切る。
- ② 熱した鍋にごま油を薄くひき、ベーコン、小松菜の順に炒める。
- ③ 小松菜がしんなりしたら水300ccと牛乳400ccを加える。
- ④ ベーコンからの塩味をみながらコンソメや塩、コショウで味をととのえる。  
とろみをつける場合は水溶き片栗粉を加え、ベーコンや牛乳のコレステロールが気になる方は魚介類や豆乳で作ってみるのも良いでしょう。

管理栄養士&野菜ソムリエ

近藤 純子

肉厚の葉に甘みが増し、寒さや霜に強い今が旬の野菜に小松菜があります。この小松菜は市川市の隣にある東京都江戸川区小松川で品種改良され、命名されたと言われています。

小松菜には肌の乾燥を防ぎうるおいを保つビタミンAやCをはじめ、糖やたんぱく質の代謝に関わるビタミンB群や骨の形成に関わるビタミンKも多く含まれ、骨や歯を丈夫にするカルシウムや貧血を予防する鉄分も多く含まれます。濃い緑の色素であるクロロフィルはコレステロール値を下げる、殺菌・消臭、肌の炎症を防ぐ、貧血を防ぐなど多くの効果があると言われ、研究がすすめられています。

どんな料理にも合い、茹でたり煮たり、炒めてもおいしいです。アクが少ないため煮物や汁物・鍋物に下茹でをせず直接入れる事もできますが、茹でて使う時はビタミンCが壊れ過ぎないようにサッと火が通る程度にしましょう。茹でた小松菜はかつお節やゴマ、のりなどとしょうゆを和えたお浸しでも、シラス干しや錦糸卵との和え物でもおいしく彩り良く仕上がります。ビタミンAを効率よく吸収するには油で炒める調理が良いでしょう。

## 看護師を随時募集中

# 急募 看護師

“ 新病棟オープンに向けて看護師を増員するため、募集を継続しています。 ”

☆常勤の看護師を募集しています。

☆チームワークの良い職場で働きませんか。

♪ 復帰支援プログラムも充実しています

♭ まずは病院見学はいかがでしょう。

# 随時受け付けております。



一般病棟ナースステーション



新病棟は来年春に完成予定

勤務時間や給与等の処遇につきましては  
ご相談下さい。

連絡をお待ちしております。

連絡先(代表) TEL 047-372-3501

内線(PHS) 6301

担当 副看護部長 高橋

## 肝臓病教室のご案内(第4回)

日時：平成23年12月10日(土曜日) 14:00~16:00  
場所：国立国際医療研究センター 国府台病院・大会議室(2階)  
◇正面玄関から入り、2階となります◇

参加費:無料

- 14:00~14:05 「概要説明」  
村田一素 肝炎・免疫研究センター・肝疾患先端治療室長
- 14:05~14:35 「脂肪肝と非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)」  
斎藤紘昭 消化器科医師
- 14:35~15:05 「治験ってなんだろう?! 治験は未来への贈りもの」  
浦辺登喜子 治験管理室 治験主任
- 15:05~15:35 「肝炎対策のこれまでのながれと今後のあり方」  
正木尚彦 肝炎・免疫研究センター 肝炎情報センター長

※ 終了後に個別相談(肝炎、肝硬変、肝癌を中心に)も行います。  
※ ご相談のある方は血液検査・CTなどの資料をお持ちいただくと、  
状態に応じた詳しい説明をお受けになれます。

お問い合わせ先: 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1  
国立国際医療研究センター国府台病院  
肝炎・免疫研究センター 村田一素 TEL: 047-375-4757



## 市民公開講座のご案内 No. 1

日時：平成23年12月4日(日曜日) 10:30~12:00  
場所：西部公民館(市川市中国分2-13-8)  
参加費：無料

テーマ：「生活習慣を改善するコツ」

※会社や地域の健康診断で血糖やコレステロール・高血圧などを指摘された方へ、  
生活習慣を改善するコツをお伝えします。

講師：国立国際医療研究センター国府台病院 内科認定医 足立洋希  
糖尿病認定看護師 梶川智恵子  
管理栄養士 生和 良の  
理学療法士 大久保裕史

お問い合わせ先: 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1  
国立国際医療研究センター国府台病院 看護部 TEL: (代)047-372-3501 内2116



## 市民公開講座のご案内 No. 2

日時：平成24年1月21日(土曜日) 14:00~15:30  
場所：和洋女子大学 東館5階5-1教室(市川市国府台2-3-1)  
参加費：無料(学生だけでなく一般の方も参加自由・予約不要です。)  
テーマ：「摂食障害について一緒に考えよう」

※最近、食べ物のカロリーばかり気にしていませんか?  
やせていることで満足していませんか?  
摂食障害という言葉を知っていますか?

講師：国立国際医療研究センター国府台病院 内科部門診療部長 石川俊男  
心療内科医師 本間洋州・吉田庸子  
管理栄養士 鈴木知子・河野公子  
看護師 真田愛里・吉田恵子

お問い合わせ先: 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1  
国立国際医療研究センター国府台病院 看護部 TEL: (代)047-372-3501 内2116



## オープンカンファランスのご案内（地域連携医様向けのご案内です）

※このカンファランスは、近隣で地域医療に貢献されている先生方と当院の医師が交流を深めながら、医学技術の向上を図るため、当院で企画しているものです。

日時：平成23年11月28日（月曜日） 19:00～21:00

場所：国立国際医療研究センター 国府台病院・大会議室（2階）

### 症例検討

「幻覚妄想状態を呈し髄液検査が正常であった26歳女性」 吉川玲欧 統合内科医師  
「TNF阻害療法により皮膚筋炎を発症した関節リウマチの1例」 竹内 悠 統合内科医師  
「当科における知的障害者・発達障害者の白内障手術経験」 山崎廣子 眼科医長  
「身体違和感と情動変化と鉄欠乏」 富田吉敏 心療内科医師

### トピックス

「間欠性跛行 ～歩くと足が痛い…なぜ？～」 賀嶋俊隆 心臓血管外科医師  
「B型肝炎 ～HBs抗原陰性かつHBs抗体陽性者からB型劇症肝炎が発生する？！～」  
青木孝彦 肝炎・免疫研究センター医師

お問い合わせ先 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1

国立国際医療研究センター国府台病院

地域医療連携室 TEL: (代)047-372-3501



## クリスマスコンサートのお知らせ

アンサンブル国府台団長 脳神経外科 岡田 仁  
クリスマスコンサート実行委員 心療内科 田村奈穂

毎年恒例のクリスマスコンサートの季節がやってまいりました！  
「アンサンブル国府台」や「フレミング」に新たなメンバーを加え、  
国府台病院職員を中心としたメンバーでお送りいたします。  
是非、お誘い合わせのうえ、癒しの空間にいらしてくださいね。

日時：平成23年12月23日（金）祝日

開演：午後2時

場所：国府台病院

リハビリテーション室

参加費：無料



## エコキャップ回収運動

当院では発展途上国の子どものワクチン接種運動に協力するため、キャップの回収運動を行っています。  
平成23年1月末から10月1日までの累計個数は、35,000個となりました。ご協力ありがとうございました。

1月末設置～10月1日迄 累計個数 35,000 個

ワクチン 43.7 人分

# 編集だより

編集長

## “「木内ギャラリー」をご紹介します”

木内ギャラリーは、明治から大正時代に政治家として活躍した木内重四郎氏の別邸だった建物ですが、現在は一般公開されているほか、画廊、コンサートなどに使われ市民の芸術文化活動の発表の場として利用されているものです。

木内重四郎は、三菱・岩崎財閥の番頭ともいわれた人物で、慶応元年(1866年)千葉県山武郡の生まれです。明治政府で法制局や農商務省などの官職を歴任し、明治44年(1911年)に貴族院議員となり、大正5年(1916年)には京都府知事となっています。晩年はこの別邸で過ごし61歳の生涯を閉じました。

木内氏は国府台の高台からの眺めを好んでここに別邸を建てたと言われており、国府台の丘陵に位置する約1万坪の敷地に洋館と和館を併せ持つ建物として大正3年(1914年)に建築されました。塔屋もあり、当時は市川の町並が一望されたと思像できます。木内氏が61歳で死去した大正14年(1925年)まで使われていました。平成11年(1999年)には取り壊されましたが、近代建築様式(和洋折衷様式)として価値が高く、大正近代建築物を保存するため平成16年(2004年)に洋館部分のみ移築復元され「木内ギャラリー」として公開されています。移築はできるだけ当時のままの材料を使って行われたそうです。洋館の内部は、玄関、応接室、書斎、ベランダなどがあり、西洋式の設計や装飾が施されています。



木内ギャラリー

### ー 岩崎弥太郎との繋がりー

木内重四郎の磯路夫人は、三菱財閥創始者の岩崎弥太郎・喜勢夫妻の次女です。

重四郎・磯路夫妻は三男二女をもうけましたが、長男の良胤は外交官、次男の信胤は経済評論家、長女の美艸子は最後の土佐藩主山内豊範の四男で海軍少将を務めた山内豊中に嫁ぎ、次女の登喜子は日本銀行総裁や大蔵大臣を務めた渋沢敬三と結婚しています。



切り通し道を下ると  
県道1号(松戸街道)へ出る



旧木内家別邸跡地周辺の緑地を維持保存する表示(市川市)

住所： 千葉県市川市真間4-11-4  
電話： 047-371-4916  
時間： 9時～17時  
休館： 月曜(祝日の場合は翌日)及び年末年始  
アクセス： 京成「国府台駅」より徒歩8分  
JR市川駅から松戸方面行きバス  
「真間山下」下車、徒歩5分



